

## 特別調査：水と雪に関するイメージ／新潟市

ミツカン水の文化センターでは、雪の多い地域での水に関する意識を明らかにするため、昨冬に記録的大雪に見舞われた日本海側の代表的な雪国である新潟市において、同市在住の20～60代の男女479名を対象に特別調査を実施しました。ここでは、東京・大阪・中京圏との比較において、特筆すべき差異がみられた項目を中心に紹介します。

### Q.あなたの居住地域に、水に関して誇れることはありますか？

#### Q.水に関して誇れることは何ですか？

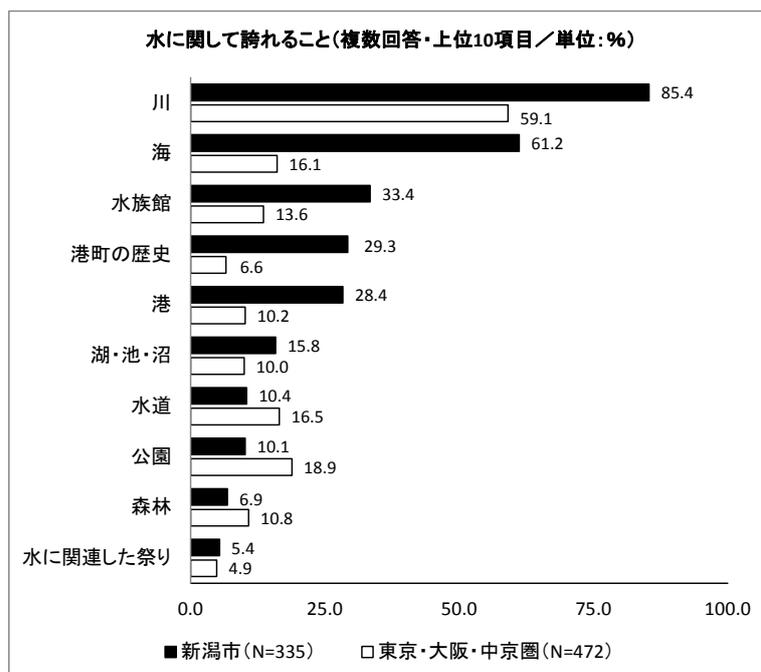
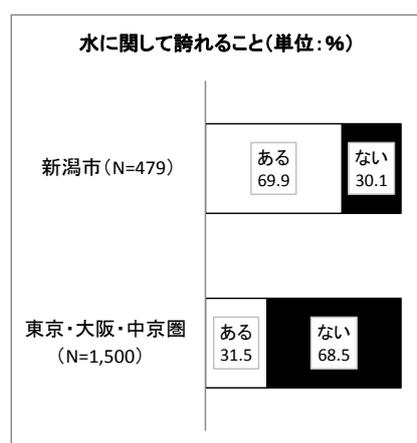
(15択＋その他／前問で「誇れることがある」人のみ回答)

◇新潟市民の約7割が「水に関して誇れることがある」

◇誇れることの1位は「川」、2位が「海」

新潟市民の約7割(69.9%)が「水に関して誇れることがある」としました。これは東京・大阪・中京圏の2倍を超える数値です。

そして「水に関して誇れること」として、新潟市民の「誇れることがある」人のうち85.4%が「川」、61.2%が「海」を挙げました。「川」は、東京・大阪・中京圏でも1位(59.1%)ですが、数値に26.3ポイントもの開きがありました。また、3位以降に目を向けると、3位「水族館」(33.4%)、4位「港町の歴史」(29.3%)、5位「港」(28.4%)で、東京・大阪・中京圏と大きな違いが出ました(東京・大阪・中京圏ではそれぞれ5位:13.6%、11位:6.6%、7位:10.2%)。これらは、日本一長い信濃川や、国際拠点港湾である新潟港、新潟市水族館(マリニピア日本海)などを有する新潟市ならではの結果といえます。

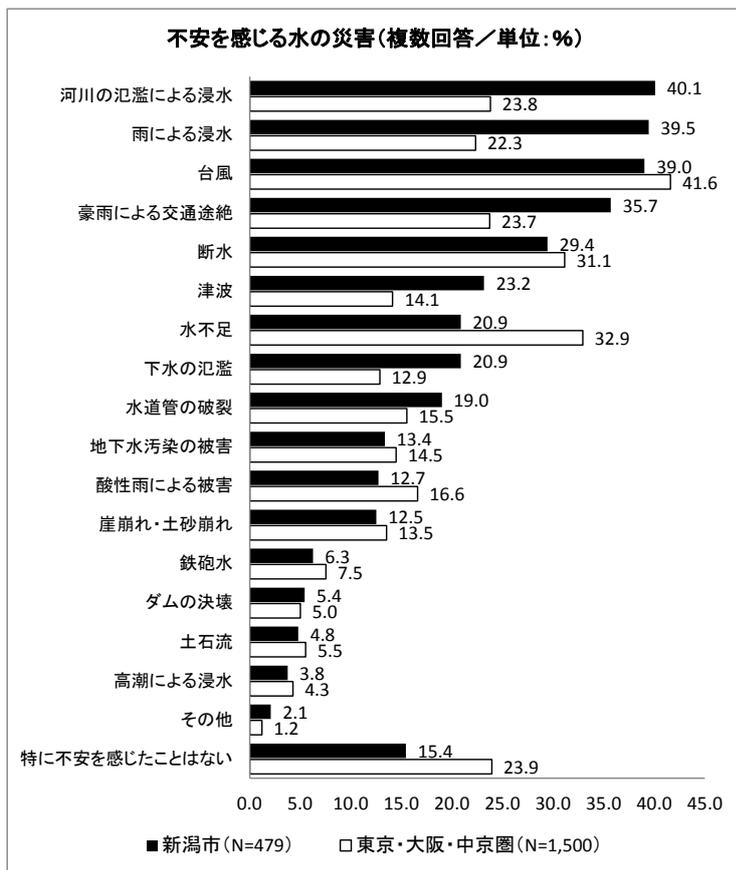


### Q.不安を感じる水の災害は？ (16択＋その他＋特に不安を感じたことはない)

◇新潟市民が不安を感じる水の災害は、1位「河川の氾濫」、2位「雨による浸水」

新潟市民の「不安を感じる水の災害」でトップに挙げたのは「河川の氾濫による浸水」(40.1%)で、5人に1人(20.2%)が「最も不安を感じる水の災害」としても回答しました。次いで「雨による浸水」(39.5%)が僅差の2位で、新潟市民は浸水による被害を恐れていることが分かりました。新潟県は2004年、2011年と記録的豪雨(平成16年7月新潟・福島豪雨および、平成23年7月新潟・福島豪雨)に見舞われており、これが結果に影響していると考えられます。

東京・大阪・中京圏と比較すると、東京・大阪・中京圏では「水不足」(2位:32.9%)、「断水」(3位:31.1%)が上位だったのに対し、新潟ではそれぞれ7位(20.9%)、5位(29.4%)と、順位・数値ともに下回る結果となりました。



**Q.「水の都」のイメージにもっとも近い都市は？ (自由回答)**

◇新潟市民の水の都は「新潟」も、全国区の認知は低い！？  
東京・大阪・中京圏で「新潟」を挙げたのは0.5%

新潟市民がイメージする「水の都」は、「新潟」。新潟市民の2人に1人(52.8%)が「水の都は新潟」としました。これは、大阪圏の「大阪」(48.4%)、中京圏の「大垣」(22.0%)と比べても、かなり高い得票率といえます。新潟市は、かつて市の中心部に堀が巡り、それに沿って柳が植えられていたことから、「柳都」とも呼ばれており、「水の都＝新潟」が、新潟市民としては当然の認識なのでしょう。

一方、東京・大阪・中京圏全体のトップは「大阪」(21.1%)、次いで「思い浮かばない」(17.3%)、「大垣」(7.7%)で、「新潟」と回答したのは、わずか0.5%でした。地元が誇る“柳都新潟”も、全国区での認知は低いようです。

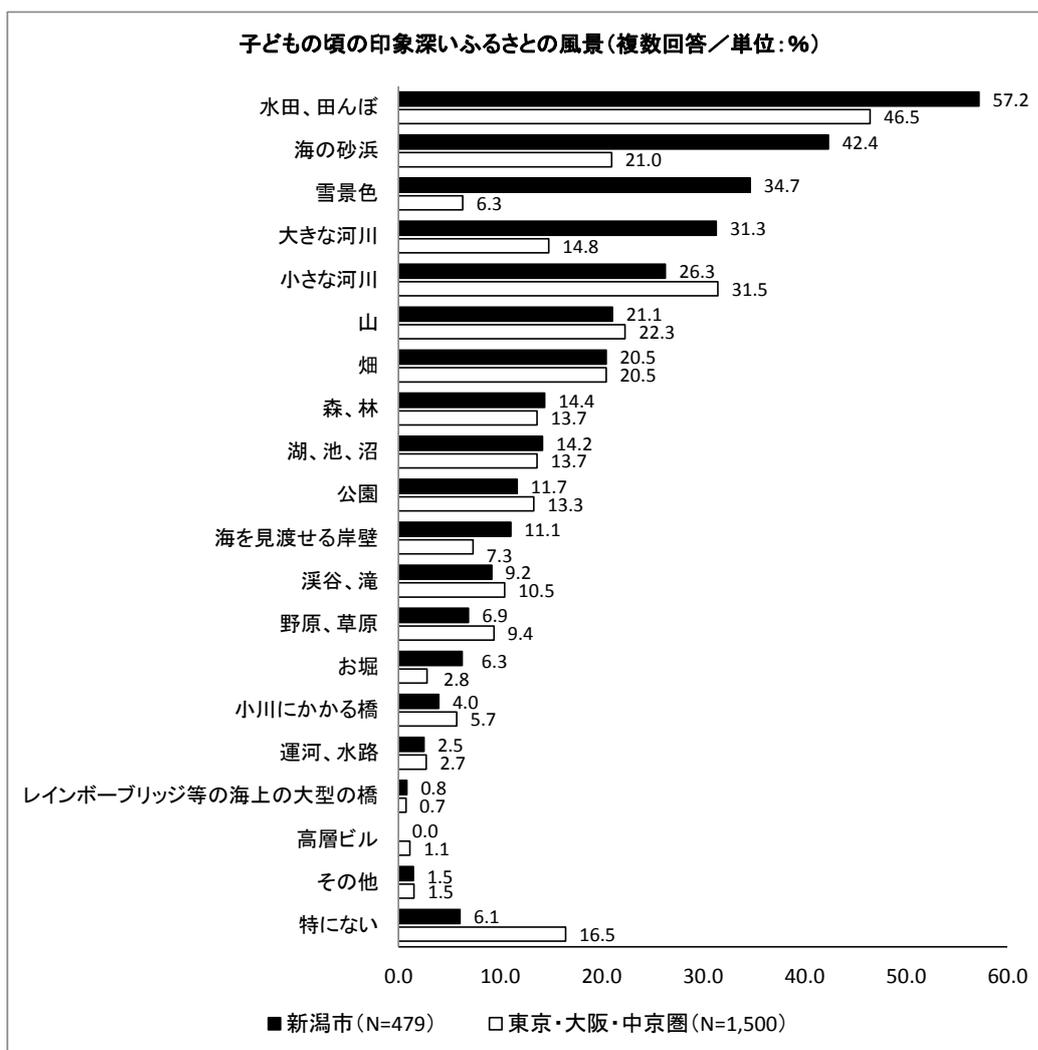
**水の都のイメージ都市トップ5(自由回答/単位: %)**

	1位	2位	3位	4位	5位
新潟市 (N=479)	新潟	思い浮かばない	柳川	大阪	仙台
	52.8	12.9	5.6	4.0	2.7
東京・大阪・中京圏 (N=1,500)	大阪	思い浮かばない	大垣	滋賀	郡上八幡
	21.1	17.3	7.7	5.3	2.9

**Q.印象深いふるさとの風景は？ (18択+その他+特にない)**

◇新潟市民が選んだトップ3は「水田」「海の砂浜」「雪景色」

「子供の頃の印象深いふるさとの風景」を聞いたところ、新潟市民が選んだトップ3は1位「水田・田んぼ」(57.2%)、2位「海の砂浜」(42.4%)、3位「雪景色」(34.7%)でした。“米どころ”“新潟海岸”“雪国”といった新潟のイメージからも納得の結果といえます。ちなみに東京・大阪・中京圏は、1位「水田・田んぼ」(46.5%)、2位「小さな河川」(31.5%)、3位「山」(22.3%)で、「雪景色」は6.3%(13位)と、さすがに大きな差が表れました。



**Q. 「雪国」と聞いて思い出す都道府県は？** (自由回答)

**Q. 最も行ってみたい国内の「雪国」は？** (自由回答)

◇思い出す雪国は「新潟」

◇行きたい雪国は「北海道」

「雪国」と聞いて思い出す都道府県を聞いたところ、新潟市民の約8割(80.4%)が地元「新潟」を挙げ、東京・大阪・中京圏でも40.6%でトップでした。次いで「北海道」(新潟10.0%、東京・大阪・中京圏24.5%)、「青森」(新潟6.5%、東京・大阪・中京圏17.0%)と、数値に違いはあるものの、新潟市と東京・大阪・中京圏のトップ3は同じでした。ただし、東京・大阪・中京圏で年代別にみると、20代と30代の1位は「北海道」(20代:43.0%、30代:31.7%)、「新潟」は2位(20代:27.3%、30代:29.7%)と、順位が逆転しました。新潟(湯沢町)は、川端康成の代表作「雪国」の舞台でもあり、「雪国=新潟」のイメージに大きな影響を与えているものと思われませんが、その影響力は世代が若くなるにつれて低くなっているのかもしれませんが。

また、最も行ってみたい国内の「雪国」については、新潟市、東京・大阪・中京圏ともに、半数以上が「北海道」を挙げ(新潟市55.2%、東京・大阪・中京圏50.9%)、「新潟」を挙げたのは、東京・大阪・中京圏で7.7%(5位)という結果でした(新潟市では3位8.6%)。

雪国として真っ先に思い浮かぶのは「新潟」でも、それが必ずしも行きたい雪国とならないのは、“雪まつりの北海道”と“豪雪の新潟”といった、両者のイメージの差が原因なのかもしれません。

「雪国」と聞いて思い出す都道府県トップ5(自由回答/単位:%)

	1位	2位	3位	4位	5位
新潟市(N=479)	新潟	北海道	青森	秋田	山形
	80.4	10.0	6.5	2.9	1.7
東京・大阪・中京圏(N=1,500)	新潟	北海道	青森	秋田	富山
	40.6	24.5	17.0	9.6	2.4

最も行ってみたい国内の雪国トップ5(自由回答/単位:%)

	1位	2位	3位	4位	5位
新潟市(N=479)	北海道	雪国は苦手・雪国在住	新潟	秋田	青森
	55.2	11.1	8.6	7.9	6.3
東京・大阪・中京圏(N=1,500)	北海道	青森	秋田	雪国は苦手・雪国在住	新潟
	50.9	9.5	8.4	7.9	7.7

**Q.雪に対するプラスイメージは？** (7択+その他+特にない)

**Q.雪に対するマイナスイメージは？** (10択+その他+特にない)

◇プラスイメージに乖離はないが、マイナスはイメージと現実にギャップ！？

マイナスイメージの新潟市1位は「除雪」、東京・大阪・中京圏の1位は「道路が滑る」

雪に対して感じるプラスイメージとマイナスイメージを聞いたところ、プラスイメージは、新潟市も東京・大阪・中京圏も、1位「美しい景色」(新潟市70.4%、東京・大阪・中京圏72.5%)、2位「スキー・スノーボードなどのスポーツ」(新潟市55.9%、東京・大阪・中京圏48.9%)、3位「雪合戦、雪像づくりなどの遊び」(新潟市35.5%、東京・大阪・中京圏33.1%)、4位「観光資源」(新潟市27.6%、東京・大阪・中京圏23.3%)、5位「雪室での野菜などの保存」(新潟市24.8%、東京・大阪・中京圏13.2%)と、トップ5はすべて同じ順位でした。

一方、マイナスイメージは、新潟市では1位「除雪」(83.1%)、2位「道路が滑る」(76.6%)、3位「凍結」(68.3%)で、東京・大阪・中京圏のトップ3は、1位「道路が滑る」(64.4%)、2位「雪下ろし」(63.3%)、3位「凍結」(59.2%)でした。

両者を比較すると、順位もさることながら、それぞれの数値に大きな差がみられました。例えば、「除雪」は新潟市でトップ(83.1%)だったのに対し、東京・大阪・中京圏では5位(54.9%)と、28.2ポイントの開きがあり、新潟市4位(67.6%)の「交通マヒ」は、東京・大阪・中京圏では48.5%の7位でした。

外から見た雪国に対するイメージと、実際に雪国で暮らす人のリアルな現実とのギャップによる差が表れた結果といえそうです。

